



山形県感染症発生動向調査

平成30年第42週(10月15日～10月21日)

山形県感染症情報センター(山形県衛生研究所)
 TEL.023-627-1109, FAX023-641-7486
 URL <http://www.eiken.yamagata.yamagata.jp/>
 2018年10月24日 発行

<定点把握感染症>

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

※◎:警報レベル

○:注意報レベル

疾患名	全国	山形県			村山地区			最上地区			置賜地区			庄内地区			累積(県) 第1~42週
	第41週	第41週	第42週	増減	第41週	第42週	増減	第41週	第42週	増減	第41週	第42週	増減	第41週	第42週	増減	
インフルエンザ定点 (定点医療機関数)		(48)			(20)			(5)			(10)			(13)			
インフルエンザ	617 0.12	11 0.23	26 0.54	▲	5 0.25	11 0.55	▲		8 1.60	△	6 0.60	7 0.70	▲				16224
小児科定点 (定点医療機関数)		(30)			(13)			(3)			(6)			(8)			
RSウイルス感染症	3615 1.15	70 2.33	47 1.57	▼	43 3.31	20 1.54	▼		1 0.33	△	21 3.50	17 2.83	▼	6 0.75	9 1.13	△	1287
咽頭結膜熱	776 0.25	6 0.20	14 0.47	△	2 0.15	2 0.15		2 0.67	7 2.33	▲	2 0.33	5 0.83	△				734
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4078 1.29	47 1.57	58 1.93	△	15 1.15	19 1.46	△		4 1.33	△	22 3.67	24 4.00	▲	10 1.25	11 1.38	△	3845
感染性胃腸炎	9454 2.99	73 2.43	63 2.10	▼	37 2.85	21 1.62	▽	2 0.67	5 1.67	△	24 4.00	31 5.17	△	10 1.25	6 0.75	▽	6094
水痘	868 0.27	6 0.20	6 0.20		1 0.08	2 0.15	▲	1 0.33		▽	2 0.33		▽	2 0.25	4 0.50	△	491
手足口病	2877 0.91	19 0.63	16 0.53	▽	11 0.85	12 0.92	△		1 0.33	△	1 0.17		▽	7 0.88	3 0.38	▽	1253
伝染性紅斑	1090 0.35	17 0.57	16 0.53	▽	3 0.23	1 0.08	▽	1 0.33	5 1.67	△	10 1.67	9 1.50	▽	3 0.38	1 0.13	▽	403
突発性発しん	1200 0.38	19 0.63	15 0.50	▽	7 0.54	3 0.23	▽	2 0.67	2 0.67		4 0.67	6 1.00	△	6 0.75	4 0.50	▽	718
ヘルパンギーナ	1734 0.55	24 0.80	24 0.80		4 0.31	2 0.15	▼	1 0.33		▽	14 ◎2.33	18 ◎3.00	△	5 0.63	4 0.50	▼	2812
流行性耳下腺炎	335 0.11	2 0.07	2 0.07			1 0.08	△		1 0.33	△	1 0.17		▽	1 0.13		▽	128
眼科定点 (定点医療機関数)		(8)			(4)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	9 0.01	1 0.13		▽										1 0.50		▽	1
流行性角結膜炎	602 0.86	2 0.25		▽	1 0.25		▽							1 0.50		▽	95
基幹定点 (定点医療機関数)		(10)			(4)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	5 0.01																20
クラミジア肺炎	2 0.00																
マイコプラズマ肺炎	158 0.33	3 0.30	4 0.40	▲	3 0.75	3 0.75									1 0.33	△	121
細菌性髄膜炎	9 0.02																8
無菌性髄膜炎	22 0.05																6

<全数把握感染症>

疾患名	類型	報告数				備考
		村山	最上	置賜	庄内	
結核	患者	5	1		1	
アメーバ赤痢	患者				1	
後天性免疫不全症候群	患者				1	
侵襲性インフルエンザ菌感染症	患者	1				ワクチン接種歴:不明。
腸管出血性大腸菌感染症	患者				1	※第41週追加報告分。型別:O血清群不明 VT型不明。
レジオネラ症	患者	1				※第41週追加報告分。

<通信欄>

※インフルエンザの型別、集団発生等の情報については2ページ目のトピックスをご覧ください。

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。

<定点把握感染症 報告患者数 年齢別>

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	
インフルエンザ		2			2	3	2		4	6	2	2			
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～									合計
	2		1												26
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症	10	8	12	9	3	3			2						47
咽頭結膜熱		2	4	3	4	1									14
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎				4	7	11	6	9	5	7	2	4		3	58
感染性胃腸炎		5	5	6	6	9	5	4	4	6	1	10	2		63
水痘			1	1			1	1	1		1				6
手足口病		1	3	2	3	4	1			1	1				16
伝染性紅斑						4	6	2	1	2	1				16
突発性発しん		4	10	1											15
ヘルパンギーナ		5	8	3	5	1	1			1					24
流行性耳下腺炎									1	1					2

<平成30年9月 月報>

2018年10月24日 発行

疾患名	山形県		村山地区		最上地区		置賜地区		庄内地区		累積(県) 1～9月
	8月	9月	8月	9月	8月	9月	8月	9月	8月	9月	
STD定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)		
性器クラミジア感染症	報告数 18	17	13	11				2	5	4	166
	定点当り 1.80	1.70	3.25	2.75				1.00	1.67	1.33	
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数 3	5	1		1	2	3		1		66
	定点当り 0.30	0.50	0.25		1.00	1.00	1.50		0.33		
尖圭コンジローマ	報告数 4	2	4	2							29
	定点当り 0.40	0.20	1.00	0.50							
淋菌感染症	報告数 7	6	2	3					5	3	32
	定点当り 0.70	0.60	0.50	0.75					1.67	1.00	
基幹定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)		
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数 4	5			2				2	5	64
	定点当り 0.40	0.50			2.00				0.67	1.67	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数 22	21	10	7	1	1	1		10	13	170
	定点当り 2.20	2.10	2.50	1.75	1.00	1.00	0.50		3.33	4.33	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数										
	定点当り										

<トピックス>

インフルエンザに注意しましょう

インフルエンザの報告数が増加傾向にあります。

毎年冬に大きな流行となりますので、早めの対策を心がけましょう。

・インフルエンザ

警報開始基準値:30人 警報終息基準値:10人 注意報基準値:10人

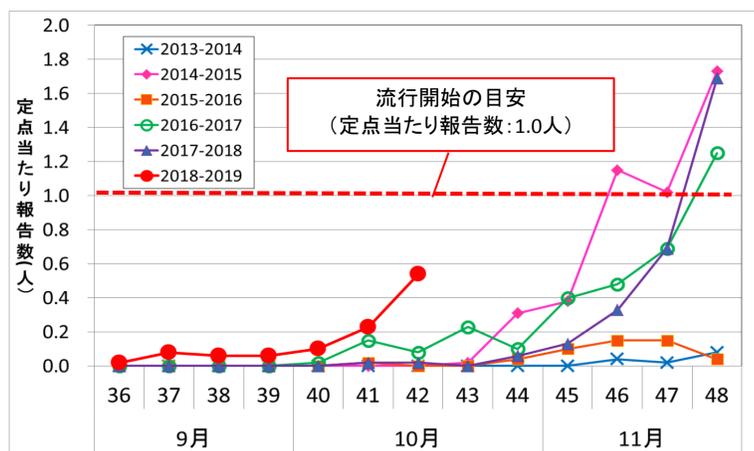
・第42週 定点当たり報告数 (山形県:0.54人)

村山 0.55人、最上 1.60人、置賜 0.70人、庄内 0.00人

<集団発生情報(県健康福祉企画課まとめ)>

	村山	最上	置賜	庄内	合計
小学校	1	1	0	0	2
合計	1	1	0	0	2

<定点当たり報告数の推移(山形県)>



<迅速診断キットによるインフルエンザウイルスの陽性件数>

	村山	最上	置賜	庄内
A型(件)	11	8	7	0

<ウイルス分離・検出状況(山形県衛生研究所 10月17日現在)>

今シーズン(2018年36週～)の山形県内のインフルエンザの患者から、AH1pdm2009が2件検出されています。

インフルエンザとは?

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによっておこります。風邪よりも症状が重くなることが多く、中には肺炎や脳炎などを併発して重症化してしまう人もいます。(下表:インフルエンザと風邪の症状の違い)

	インフルエンザ	風邪
症状	38度以上の発熱	発熱
	頭痛、関節痛、筋肉痛、喉の痛み、咳、鼻水など	喉の痛み、咳、鼻水など
	喉の痛み、咳、鼻水など	
	急激に発症	比較的ゆっくり発症

感染経路は、感染者の咳などのしぶきを吸い込むことによる飛沫感染と、ウイルスのついた手で口や鼻を触って粘膜から感染する接触感染があります。

予防のためには、こまめな手洗いをする、適度な湿度を保つ、普段から十分な睡眠とバランスのよい食事を心がけ、免疫力を高めておくことが重要です。また、インフルエンザワクチンを受けることで発症の可能性を減らし、重症化を予防することが期待できます。

咳が出るときは、飛沫にウイルスを含んでいる可能性がありますので、マスクを着用したり、くしゃみや咳をするときにティッシュなどで口や鼻を覆う「咳エチケット」を心がけましょう。

